

平成28年度 第2回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成28年12月19日(月) 午前10:30～12:00

2 場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬哲
同職務代理 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香
委員 小林輝紀

4 出席した事務局職員

教育部長 栗岩康彦
文化振興部長 石田一彦
子ども育成課長 荻原賢二
学校教育係長 丸山真央
学校教育係 宮沢麻由

5 会議の経過及び発言

1 開 会

(荻原課長)

平成28年度第2回の総合教育会議を始めます。

総合教育会議は公開となっておりますので、報道の皆さんが入りますが、よろしくお願ひします。

2 あいさつ

(足立市長)

いよいよ28年も残すところ僅かとなってまいりました。本日は2回目の総合教育会議ということで、委員の皆様にはお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。また、小林さんには新委員として加わっていただくこととなりました。今までと違った視点でも、ご提言いただければと思います。よろしくお願ひします。

さて、総合教育会議は教育大綱に基づき開催という基本路線があります。本日は前回会議以降の現況について、また次年度に検討している事業等について、それぞれ説明させていただき、委員の皆様からも課題も含めてご意見を賜ればと思っております。飯山市としましても教育は大事なことと認識しております。皆様方のお力をお借りしまして、具体的に推進してまいりたいと思ひます。よろしくお願ひします。

3 議題

(1) 次年度の各学校の状況について

資料1ページから12ページを事務局子ども育成課長より一括説明。

(長瀬教育長)

それでは現況について、ご理解をいただきたいという趣旨で説明申し上げます。

資料1ページは、現在の調査時点での来年度の学級数・生徒数になります。

1点は、城北中の1年生以外が2クラスになるということで、部活等に影響が出るという懸念があるということです。特に両中学校の生徒数の推移については10ページにでておりますが、資料1ページには、それぞれの学級数・生徒数の推移が出ておりますが、特に中学校の統合というものを長期展望の中で視野に入れなくてはいけない時代が、やがて来ると推測されます。

校舎収容人数の制限がありますので、城南中学校校舎では1クラス35人で、1学年4クラスの3学年としますと、420人というのが1つの大きな数字になります。

そうしますと資料には平成37年度に424人という数字がでておりますので、平成37年度までは、統合ということを考えても厳しいのではないかと推測されますが、37年度までに長期プログラムで中学校をどうするかというのを、考えていく時期にきているのかというのが検討課題の一つになるという、生徒数の推移からの見解です。

小学校の児童数の推移については、現況で十分対応していけると思っています。

東小は市の加配をつけて、少人数でも学力等の結果を出しておりますので、頑張ってもらいたいと思っております。

生徒数について、市として考えていかなければいけないのが、もう1点あります。

資料一番最後をご覧ください。

生徒数の推移という言葉からも関係しますが、飯山市にとってスキーは歴史文化を考えるうえで大事な部分になりますが、39ページ飯山市の小中のスキー部員の現況でございます。

クロス・アルペン・ジャンプとありますが、ジャンプ競技部員が小・中でゼロという状況です。飯山市のスキーにとってジャンプ部門を今後、どのように育成していくかというのが大きな課題になると思いますので、教育委員の皆様、学校スポーツとしてのスキー、飯山市全体としてのスキーについて、どのように考えていったらよいかというのを、ぜひ、ご意見をいただければありがたいと思います。よろしくお願ひします。

(足立市長)

学校の状況ですが、生徒数の関係、長期的には中学校の生徒数推移からの見解説明いただきました。教育長からお話いただいたスキー育成の関係で、どうでしょうか。

比較的クロスは選手が充実している状況ですが。

せっかくジャンプ台もあるなかで、サマージャンプ大会を開催しても地元選手がいないのは残念なことと思っております。今は竹内選手や作山選手のように世界で活躍する選手も輩出しているが、続くジュニア選手の育成について、もう少し強化していかななくてはいけないと思っております。委員の皆様からご意見ありましたらお願ひします。

(小林委員)

ジャンプ人口がしっかりしている欧米やヨーロッパでは、サマージャンプに力をいれています。子ども達、選手が夏の間をしっかり飛べる環境があって、半分は遊びからスタートして、準競技へ延長している環境があると強いと思います。飯山市でもサマージャンプ大会がありますが、11月ではなく本当の意味での夏のサマージャンプが用意できたらいいと思います。重装備の競技なので、環境によってかなり左右されるかと思います。

(田中職代)

先月のサマージャンプ大会を見に行きましたが、飯山市の選手が小学校にも中学校にもいないという寂しい思いをしました。テストジャンパーに地元の3年生の女の子がいましたが、クロスやアルペンに比べて、ジャンプというのはハードルが高いような気がします。しかし実際には、高梨沙羅選手や地元の竹内拓選手のような、子どもたちが普段テレビなどで目にするスター選手がいるわけで、子どもの関心が全くないわけではなく、いざやろうとしたときのハードルが高いと感じます。もっと遊び感覚で関わっていける場所と指導者とチャンスがあれば、もう少し増えていくのかと思います。

ただ、学校教育の中で、学校で指導していくのは難しいのではないかと考えています。以前は中学の部活動にジャンプ部があり、顧問もいました。今、これだけ生徒の数が少なくなって先生の数も少なくなると、それぞれ顧問を付けることも難しくなり、中学でジャンプはできないわけで、中学を見据えて小学校の頃からジャンプをやろうとする子どもも少なくなってくる。

やはりこれは社会体育の中で、市として、夏から楽しんで簡単に楽しんでやれるような環境や機会をつくっていただけたらと思います。

(栗岩教育部長)

ジュニアスキー育成連絡協議会というのが小中高に組織されており、アルペン・ジャンプ・クロス部門があります。そこで専門コーチに指導してもらっている状況です。ただジャンプについては、体験教室のようなものを開催しても、なかなか人が集まらない状況。冬でも多目的運動広場で小山をつくって遊びからジャンプへ引き入れていくような体験を、ジャンプの専門部で取り入れているようですが、現状では、そこからジャンプ台への移行はなかなか難しく競技には参加できていない状況です。今いる2名の女子も競技には参加できていない。あと、ジャンプの道具というのが非常に特殊なものになるので、連絡協議会で貸し出すなど費用がかからないようにしてはいますが、少ない状況です。

(足立市長)

コーチや指導者は大勢いてチャンスは非常にあると思いますが、子どもがジャンプ台を飛ぶのは、子ども自身も大変だと聞きます。

竹内君からも、ジャンプ台からの最初のジャンプは30分くらい踏み切れなかったと聞きました。その前の段階からやって、小さな頃から慣れないと難しいようです。

また、中学生くらいだと親もなかなかお金がかかって大変だと聞きます。

スキークラブの高橋会長も、中学生くらいだとお金がかかって親の負担も大変らしいと話していましたが。

(栗岩教育部長)

ジャンプ競技については、コーチなどが大会送迎支援を行っているが、保護者の皆さんの送迎も必要だということもあると思います。

(足立市長)

野沢などでは大会送迎もスキークラブが行っていると聞きます。バスの支援など。核家族化も進んでいるので、そういった面での支援も考えていけないのかもしれないかもしれませんね。

(石田文化振興部長)

日本でもトップレベルのハード面がそろっていて、指導者・コーチが複数いるので大変もったいないと思います。あとはチャンスをとらえるだけという状況。

(足立市長)

竹内選手や作山選手、こちらのスキークラブの体制も整えつつ、ジュニア育成に、どのように力を入れていくのがよいか、ご意見をいただきながら検討していければと思います。

指導者がいるという状況なので、子ども未来基金などの活用も検討しながら進めていければと思います。

スキー競技に携わる子ども達がいないと、この地域のスキー産業、観光が育っていかない。人材を育成することも大事かと思えます。続きまして教育懇談会について。

(2) 教育懇談会について

(栗岩教育部長)

資料13ページからになりますが、よろしく申し上げます。

教育懇談会は10月から始めまして、最後が11月ということで7小学校区を回り、教育委員の皆様にも出席いただきました。参加者数は198名ということであります。

一般質問でも話がありましたが、前回、平成25年度に開催した懇談会に比べ参加者が若干少なかったということでありますが、教育長からはこちらの情報を提示・理解していただき地域の意見を聞くことができたという総括となっております。

発言要旨ということで、主な意見をのせてございます。太字にしているところを読み上げます。

(中略) 以上でございます。

(足立市長)

参加された教育委員さんからご意見があればお願いします。

(樋口委員)

全てに参加できたわけではないですが、参加した懇談会では思った以上に参加者が少なかった。いろいろな機会に保護者の方の意見をお聞きしたいと思います。

(田中職代)

懇談会の時の進行をさせていただきましたが、意見が活発に出て時間オーバーし、終わらせる時間を心配する校区もあれば、意見がなかなか出ずに私の司会方法について心配になった校区もありました。

一参加者として考えた時に、なかなかあの場所で、保護者も地域も役職として参加している場合は意見が出せませんが、一個人が語るには勇気がいる雰囲気だなと感じました。

率直なご意見をいただける場としては貴重な場ではありますが、毎年開催は厳しいとも思うので、次回がいつになるかはわかりませんが、次回は今回のような方法がいいのか、小グループのような形にして率直な意見を出し合って、全体会等の場で発表いただき、その場で回答できる質問もあれば、持ち帰らなければならない意見もあると思いますが、気軽に率直な意見を出せるようなことも考えられればと思いました。

もうひとつは資料について、今回具体的なものが用意できたので、市報等に掲載されても、日頃、家庭の中では、なかなか見る機会はありません。やはりこうした機会があると、資料にも目を通すことができるので、媒体だけではなくて小さな集落でも会に合わせた要請があれば、説明に向くなどして活用できたらいいと思いました。あの資料は全てオープンでよいですね？

日頃、子育てに大きく関わっているおばあちゃんたちにも伝わるといいと思います。

HPではおばあちゃんたちが目にすることは難しいと思いますので。

資料掲載や懇談会で終わりではなくて、今後も活用できたらいいと思いました。

(足立市長)

教育委員会から何かありますか。懇談会で出された意見について、どうですか。

(長瀬教育長)

教育委員会では、校長会等で企画し、委員さんからのご意見等も聞くなどして、先進地へは毎年行くようにしています。具体的には、今回視察した白川郷。懇談会の意見にもありましたが、コミュニティスクールのコーディネーターは、他の業務を兼ねながらにはなりますが、専任の人の計画を進めているところです。この懇談会で上がってきた意見については、できるだけ早く検討に入っていきたいと思っています。

(足立市長)

ほかにありませんか。それでは他にもございますので、次の社会教育委員会からの提言について。

(3) 社会教育委員からの提言について

資料18ページから23ページを事務局石田文化振興部長より一括説明。

(足立市長)

社会教育委員の構成は資料にも載っておりますが、具体的に教育委員会での方針等はどうなっていますか。

(長瀬教育長)

教育委員会事務局で検討しまして、具体的に実行できるものは、進めてまいりたいと思います。

(田中職代)

資料23ページの④の4行目、演奏会におけるマナーについては、飯山小で行った教育懇談会の時にも参加者から意見として出ていました。私も同感で、なちゅらという素晴らしい場所を作っていただき、市民の皆さんの行く機会が増えました。毎日のように何かしらの発表会や公演等が行われています。市民の皆さんにもおおいに利用していただきたいと思いますが、とにかくマナーが良くないと感じます。ホール等の入口に小さいけれど、演奏中の出入りは遠慮いただくよう表示がありますが、子どもたちの演奏中や発表中に平気で入ってきて席を探したり、何かを食べたりという状況が目につきます。公演中のマナーとして、気持ち良い鑑賞・利用ができるように、大人も子供も、家庭でも学校でも社会教育でも指導していかないといけないと思います。

(石田文化振興部長)

なちゅらの事務局にも多くではないですが、意見として寄せられたこともあります。

飯山小学校の教育懇談会と、青少年芸術祭舞台部門の開催日との、前後関係がわかりませんが、顕著なのは青少年芸術祭のときの、家族がくるけど、自分の子どもが出演してるときだけ見たい」というとき。ステージ上で演奏中でも出入りがあって、極めて顕著です。

そのほかの公演では、基本的なマナーは守られていると思いますが、演奏中の飲食は基本論外ですので、夏場のペットボトル等、気づけば注意はさせていただいていますが、表示やマナー教育等対応検討していきたいと思います。

(足立市長)

なちゅらは多目的ホールもあって、演奏内容によりクラシックなどの演奏途中の出入りはマナーとして不可であるが、演目によりジャズのような聴きながらアルコールを飲むというような、飲食しながらの内容ではどうだろうか。主催者側がどういうものをやりたいか、多目的な活用はどうだろうか、まだ実施していないのだろうか。

(石田部長)

ディナーショーとか軽食を取りながらジャズを楽しむというようなものは、企画段階で、実施はまだです。

(足立市長)

構成を変えて、ジャズのように聴きながらアルコールをとるなど、その時に応じたマナーや楽しみ方が大事ではないかと思いますが。発表会みたいなのは難しいが、基本的に演奏中の出入りは不可ではないでしょうか。

(石田文化振興部長)

基本的にマナーというものがあって、それがルール作りだと思います。青少年芸術祭のような出入りの激しいものについては、主催者としては、参加団体との打ち合わせの中でも、演奏中は中

座してはいけませんよ、というようなことが実行員会のなかでも徹底できていければと思います。

(足立市長)

それぞれ内容によって、守ってもらうべきマナーみたいなものを決めてもらえるといいのかな。それでは時間の関係もありますので、次へ進みたいと思います。

(4) 平成29年度教育委員会関係主要事業について

(足立市長)

それでは平成29年度の教育委員会関係主要事業ですが、市全体の予算編成はこれからでございますので、予定ということでご理解いただきたいと思います。

(荻原課長)

各課主要事業について3か年実施計画ということで、24ページからになります。今後、予算要求・編成の中で変更の可能性があるということでご承知おきください。まず、子ども育成課の子育て支援係関係ですが、仮称「飯山市子ども館」整備事業です。現在、基本設計を進めています。

来年度は、管理運営方法を検討していく予定でございます。

「保育拡大への対応」につきましては、現在行っております事業の継続となります。

「児童福祉施設整備事業」では、大きなものとして木島保育園大規模改修を考えてございます。

「保育園のあり方検討」ということで、ひとつは市街地の保育園のあり方を今後、考えていくということでございます。

次に学校教育係関係でございますが、「小学校・中学校施設整備事業、小学校リニューアル整備事業」について、岡山小学校プール解体や城南中学校体育館吊り天井改修工事等を行っていく予定でございます。

「城南中の移転事業」は、プール改修工事を来年度実施したいと考えているものでございます。

次の「わかる授業・確かな学力育成事業、学力向上対策の実践」は、今年度に引き続き実施していくものでございます。「英語教育の推進事業」は新たな支援として英検3級以上の受験料の補助でございます。国際交流についてはバサーストハイキャンパス、シンセン外国語学校との交流があります。「小中学校のICT教育推進事業」につきましては、小学校3校のタブレット化、無線LANの環境整備を進めてまいりたいと思っております。

「新教育委員会制度への対応」につきましては、学校の適正規模について内部検討、外部検討組織の設置等を29年度で考えていきたいということでございます。

25ページになります。市民学習支援課の関係でございます。

社会教育委員の提言にもございましたが、雪国大学事業の推進という部分。

ハード的な部分で「公民館整備事業」で公民館1階トイレの改修等を考えてございます。

図書館係につきましては「図書館整備事業」で蔵書購入が主な内容となります。

文化財係の「文化財調査事業」につきましては、飯山城石垣の復旧・修復の実施設計部分でござ

います。二つ下になりますが「文化的景観保護推進事業」につきましては、小菅地区の文化的景観の整備活用計画の策定になります。

次の26ページになりますが、人権政策課としましては「人権同和教育推進事業」を例年同様実施していきたいということでございます。

スポーツ推進室では「体育施設整備事業」で市民体育館の耐震化、勤労者体育館屋根塗装工事等を予定しています。あとは「ジュニアスポーツ振興事業」、「スポーツツーリズム推進事業」でございます。

27ページでございますが、文化交流課ということで、芸術文化振興事業ということでそれぞれの芸術文化団体への補助、アウトリーチということで保育園等へ出かけていく芸術鑑賞会の開催を行っていくというものです。

施設係ということで、企画展開催事業、それから花園大学歴史博物館との連携事業として、来年白隠250年ということで、仮称「正受老人と信濃の白隠展」の開催を予定してございます。

それから続いて28ページお願いします。

(仮称)飯山市子ども館建設の関係でございます。

これにつきましては、先ほどの教育委員会の中でもふれましたが、場所は旧足立医院跡ということで選定決定させていただいたところでございます。機能について若干説明させていただきます。建設検討委員会の中で、委員の皆様のご意見をいただきながら決定したものでございます。

子育て支援センターは、乳幼児、保護者が自由に来館し、遊びの場の提供、子育ての相談、子育てサークルの情報交換の場という機能を有するものでございます。

児童センター・児童クラブにつきましては、城山児童館・上町児童センターそれぞれ老朽化の中で、新たに設置していきたいという部分でございます。

病後児保育は飯山市に施設がないということで、要望がございましたので、併設するものでございます。

最後の放課後等児童デイサービスについては、障がい児の放課後について、施設内で交流支援を行う場として設置しております。健常児、障がいをもった子ども達の交流により社会参加への相談機能の充実、総合的な子育て支援の施設として考えています。

(足立市長)

この検討委員会の中に、教育委員さんは含まれていますか。

(荻原子ども育成課長)

いません。

(足立市長)

ただいま説明がありましたが、場所は飯山小学校の隣、西側ということですか。

児童センターの対象地域は、飯山市全体ですか。

(荻原課長)

児童センターは自由来館をイメージしているので、地域や来館手段等は運営の中での検討課題です。児童クラブは登録制なので、飯山小学校区の生徒の利用を想定しています。

(足立市長)

病後児保育と放課後児童デイサービスは市内全域ということで、子育て支援と学校の放課後支援という機能を持たせるということで盛りだくさんな施設ですけれども、これまでなかった機能も含めて、これから具体的に建物の設計を踏まえて来年度は建設と運営等の検討をすすめ、予定とすれば30年度開館ということです。

(荻原子ども育成課長)

先ほど説明で漏らしてしまいましたが、保健福祉課の事業について説明させていただきます。生活困窮世帯の子ども達への学習支援ということで、学習の機会を確保するという事です。ぱーむぼいす、さくら国際高校へ委託し、生活困窮世帯の子どもへの就学支援ということです。学校へ行けなくなった、高校中退してしまった等の子どもたちに対して、ぱーむぼいすへ通学している子どもたちに対し学費補助していきたいということで29年度から新たに計画しております。

(足立市長)

まだ教育委員会サイドの案ということで、これからヒアリングをし、市として29年度の予算全体の方向を出し、案をつくっていきます。議会の3月定例会もありますので、教育委員会サイドの予定がどうなるかはわかりません。

先ほどの3か年に基づく予算も、これから詰めていく中で変更が生じることもありますということでご理解いただきたいと思います。

委員さんの方で、予算に関わらず活動の中で気づいたことなど、ご意見いただければと思います。教育大綱が1月に決まりまして、その枠組みの中で推進しているということですが、学習の力を高めるという点では、24ページの学校教育の中で、総合学力調査が今までは年1回だったのを2回にし、どこまで授業を理解できているかどうかを確認し授業へ活かしていくという点、家庭学習の推進・習慣化、新年度特に力を入れていくのは英語教育ということ。ネイティブなALTの先生と触れ合う時間を増やしたいということ、中学生の英検3級以上受ける際の受験料を補助しましょうということです。中学生の内に英検3級までとれるように頑張りましょうということです。交流関係では国際交流を進めていますので、さらに積極的に進めていきたいと考えています。それからもうひとつ小学校で英語学習が授業として取り入れられるようになるわけですが、飯山市として具体的にどのように進めていけばよいのか、小林委員さんは海外へもいかれているので、言葉の重要性とか英語教育についてご意見があれば出していただきたいと思います。

(長瀬教育長)

議題の(5)にも入っています。

(小林委員)

振られたからですが、私は非常に苦勞しております。年間11か国を周り、100日間ほど海外に行っていますが、自分の英語力のなさに苦勞しています。一番は会話力で、文字を見て教科書を読むよりも、慣れというか、臆せず、少しの言葉でもコミュニケーションがとれるかどうかがかっかけだと思ひます。

(足立市長)

慣れということですか。

(小林委員)

そうですね。会話の内容はどんどん改訂できます。

(足立市長)

検討組織の中でご意見賜ればと思ひます。

ICTの関係ですが、こちらはマウスコンピューター等のご協力もいただいているところですが、引き続きハード面の整備、活用の中身の整備を進めていきたいと思ひます。

それから教育大綱ができましたので、これに基づき、この総合教育会議の中でご意見をいただきながら具体的、重点的に進めていきたいと思ひています。それぞれの分野で見方や考え方もあると思ひますので、こうした会議のみならず、教育委員会へご意見いただければと思ひます。

委員さんから何かご意見ありますか。

(樋口委員)

先ほど定例教育委員会でも発言したのですが、飯山市子ども館について、小学校の校舎がありますので、有効活用できるものであれば校舎も活用して、たとえば児童クラブとして利用できないかどうか検討していくべきではないかと思ひます。

飯山市子ども館を作つてはいけないという話ではなく、飯山市内では校区ごとにそれぞれ児童クラブがあつて、それぞれ狭いところで行つています。

ただ学校自体は空いていて、子どもたちは少なくなつていて、空き教室があります。これは使わないことはないんじゃないかと思ひうわけです。

これまではいろんな理由があつて使われてこなかったのだと思ひますが、飯山市とすればそういった空き教室を積極的に活用して利用ができれば、もっとよくなるのではないかと思ひます。

飯山市子ども館についても、そうしたことを含めて「できない」ではなくて「なんとかできないのか」という前提で物事を考えていく必要があるのではないかと思ひます。

(荻原子ども育成課長)

子ども館は、飯山小の児童センター、児童館の建替えということからスタートしています。

児童クラブ自体が、学校の空き教室を利用して行うという設計になっていません。

もうひとつは、飯山小の子ども達の登録者数が70名という状況のなかで、学校の中の空き教室が制度的にクリアしたとして、スペースとして可能なのかという点で、現状の中では厳しいということで、子ども館で新設という計画をさせていただいております。

(足立市長)

各地区の児童クラブは小学校の校舎外にあるの？

(荻原子ども育成課長)

児童クラブというのが、学校の空き教室を利用してという設定にはならないので。

(足立市長)

学校が学校教育の中で、教育管理の中で学校施設として管理できないということですか。

どこかの小学校では校舎利用していなかったかな。

戸狩は青少年ホーム、あとは学校の一部というか空き教室を使っているということでしょうか。

別の施設の場合は、学校から通うのが大変ということもあります。

樋口委員さんがおっしゃるのは学校施設の利用ということでしょうか。

(樋口委員)

学校を使用している時間は短いと思っています。今は、下校時刻が早くなっています。

授業が終わった後の学校の教室は空いているじゃないですか。

そこでそのまま引続き、やってもらえばよいのではないかと思うんです。

そのことについては、学校側にも理解をいただかないと。

児童クラブも、学校の先生がその施設へ行って行うわけではないので、場所というかスペースをお借りできれば、子どもたちも引き続き教室で学習もできます。

それは全くできないことでしょうか。

できるのであれば、私は、それが一番良いのではないかと思います。

(田中職代)

私も現在の学校の施設利用状況、どういった場合に利用できるかできないかといった実態がわかりません。教育委員会で何度か児童クラブの実態を見に行きましょと申し上げているのですが、私が知っている東小とか秋津小で言うと、体育館の一部の準備室のような用具室のような場所を利用しています。そこ自体は非常に狭いので夏は暑くて大変です。ただし、体育館やグラウンドが利用できるので広いような狭いような感じです。今、樋口さんがおっしゃっているのは普通教室を利用できないのかということだと思いますが、東小とか秋津小で言うと各学年1学級しかないもので、普通教室の空き教室というものがないんです。

(樋口委員)

ほう。もともと小学校自体、作った時に各学年1学級だということですか。

(田中職代)

そうです。特別教室は空いています。利用するとしたら特別教室だと思います。

ただ、普通教室は子どもの私物も置いてある。特別教室を利用することは可能だと思いますので、私が東小にいたときは、大いに使ってくださいということで、保護者会も空き教室使っていたら結構ですよということで利用いただいたことがあります。

スタートした時点が、学校というところが管理の面で、入口を閉めるだけで、中で遮断することが一切できないので、体育館だけならいいが教室棟の方へ入ってこられると、備品や子どもたちの私物等もあって管理ができないので困るという発想で児童クラブがスタートしているので、その時点から双方がそういう思い込みの中で利用してきている。

ただ、飯山小や戸狩小のように普通教室が空いているようなところでは、施設の管理について双方思い込んできたけれども、もっと利用を検討していても良いと思います。というのは、新たに各小学校区に施設をつくるというのは資金面でも大変だと思いますので、利用ができるような方向で検討しても、スタートして10年経つので必要ではないかな、と思います。

(栗岩教育部長)

管理面が一番課題ですね。

たとえば「土曜日とか学校が休みの時に利用する」といったときに、平日は先生もいられるから良いけれども、土曜日や休みの時は非常に難しいのではないかという思いがあります。

(足立市長)

入口を別に設けたらどうでしょうか。

(荻原子ども育成課長)

児童クラブは入口を別に設けています。

あとは学校側との管理部分をどのように棲み分けするのか、という課題。

仮に普通教室を使うといった場合の入口や学校との仕切りが、許可を得る中で管理面含めて学校側と協議が必要となる。児童クラブとしての施設の許可がいただけるなら良いが。

確かに空いている教室の有効活用も考えていく必要があるが、制度的なところ、物理面でどうするかがあります。

(足立市長)

これからの少子化も見据えた施設の管理・権限等、現状含めて、今回いただいたご意見含めて検討していかなければなりませんね。ほかにどうでしょうか。なければ次の議題(5)を一括して。

(5) 教育委員会からの要望・検討事項について

(長瀬教育長)

時間の関係で一括して。資料30ページをお願いします。

ベネッセで行った城北中、城南中の英語の調査結果です。

全国・飯山市、城北中・城南中の結果がでております。

結果から、英語の力が厳しい現状にあることが理解いただけると思います。

資料32ページをご覧ください。

英語の実力の現状が、英語検定に対する姿勢の弱さに出ているのではないかと思います。

3学年220人、英検3級以上所有・取得がたった22人しかいない。

それと匹敵するレベルは57人とされておりありますが、これはあくまでも中学校の先生の見方ですのであてになりません。

中学校の英語に対する学習意欲、力が弱いと考えています。

突破口として、英検3級受験料補助で「やってみよう」という意思へつなぎ、一步踏み出したいと思います。英検についてはいろいろなものがあるが、もう少し力をつけた上で違う英語検定は高校・大学につなぐものとして英検として考えていかざる得ないと思います。

30ページと32ページから飯山の英語の実情の一端がおわかりいただけると思います。

それをふまえて2020年度から小学校5～6年英語教科化、3～4年の英語活動が始まりますので、それまでにきっちりした体制を作るために、信州大学の教育学部の先生との提携もしておりますので、来年度、検討委員会を一步進めていきたいと思っています。

具体的には教育予算の中で、最低限、小学校2校で1名のALTを確保し、小林委員からの意見にもありましたが、コミュニケーション能力を高める、ネイティブと会話をするということを進めたいと考えております。2校に1人となると、ほぼ毎日ALTに参加いただけるのでネイティブと会話できるようになります。

2020年度に間に合うよう市長のご理解をいただきながら進めたいと思っています。

これが今後の英語教育への大きな方向性です。

もう一点。34ページ。

不登校・いじめについては、先ほどの委員会でも報告しましたとおり、飯山市としては大きな流れとしては減ってきています。

市独自の加配教諭をつけて生徒に対し非常にきめ細やかな対応をとってきている。

それが年間30日以上の不登校の生徒が減ってきたのだと思います。

それから、わかる授業で生徒が登校を嫌にならない対応をとっている。

市では非常に手厚く学力向上の加配もつけております。

現場の先生方には、眼力をつけてもらって、いかに不登校・いじめを見極めるか、あるいは、いじめがでないようにしていくか、が非常に大きな課題になります。

教員のいじめを見抜く力をつける。

市は独自で不登校の手助けをしていく。

これまでの飯山市としての良い点ですので、今後も活かしていきたいなと思っています。

以上です。

(足立市長)

その他にありますか。

(長瀬教育長)

資料35ページご覧ください。

城北・城南の生徒が学校卒業後、どうしているかということです。

例年20%の生徒が下高井農林校に進学していることから、生徒減少に伴う2校が1校にならざる得ない時期ふまえて、次回の総合教育会議では下高井農林高校の大塚校長にきていただいて話をききたいと計画中です。

もう一点は例年50人前後の生徒が飯山市外へ出ていくことを考えても、飯山高校の充実も大きな課題としております。

飯山市は中高連携により、英語・数学で学力向上、授業改善に取り組んでいますが、これも今まで以上に提携しながらやっていくのも一つの方策と考えます。以上その他の項目でございます。

(足立市長)

そのほかの関係で何かありますか。英語教育に力をいれていきたいということですが。

委員さんから何かありますか。他になければ議題として挙げられたものは以上です。

進行は以上とさせていただきます。

(荻原子ども育成課長)

第3回の総合教育会議は来年2月を予定し、また調整の上通知します。

閉 会

事務局より、次回開催は2月頃の確認をし、閉会とした。